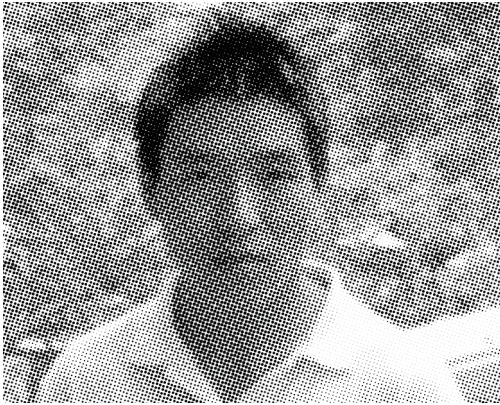


HELP



勇気あるチベット人映画制作者 ドンドゥブ・ワンチェンを 助けてください

1949年の中国軍の侵攻をきっかけに、チベットは中国政府に占領され、多くのチベット人がダライ・ラマ14世と共に亡命を余儀なくされました。そして北京五輪を直前に控えた2008年3月には、抑圧に耐えかねたチベット人の怒りが爆発。騒乱がチベット全土に広がりました。

そんなチベット人の本当の思いを世界中に伝えようと決意を秘め、カメラを携えてチベット全土を何千キロも旅をしながら人々のインタビューを行った勇気ある映画制作者がいます。35歳のドンドゥブ・ワンチェンさんは2007年11月から2008年3月にかけて、100名を超える普通のチベット人たちのインタビューを行いました。テープは協力者の手によってヨーロッパへ持ち出され、編集されて約20分の映像、"LEAVING FEAR BEHIND"としてまとめられることになりましたが、取材・撮影したドンドゥブ・ワンチェンさん本人は、騒乱の最中、2008年3月26日に中国当局に拘束されました。

その後、世界各国のチベット支援団体からの要請にも関わらず当局は拘束の事実や所在を明らかにしていませんでしたが、2009年12月、ドンドゥブ・ワンチェンさんが懲役6年の判決を受けたことが家族に伝えられました。いま彼を待ち構えているのは、不公平な裁判による投獄と、拘置中の拷問、虐待から悪化した病の痛みです。ドンドゥブ・ワンチェンさんの拘束は、言論の自由に対する抑圧でもあります。彼を救うために、中国政府に対して世界中から声を上げる必要があります。

タイトルの "Leaving Fear Behind" は、チベット語の「ジグテル」から来ています。チベット語を直訳すると、これは「恐怖から離れる」「恐怖を乗り越える」という意味です。
この撮影中、撮影者には「ジグメ」というニックネームがつけました。チベット語で「恐れを知らない」という意味です。
撮影者にもインタビューに応じた人々にも、危険が伴いました。しかし、みな声を上げ、本当に言いたいことを自由に言うために、恐怖を乗り越えました。

この映像の目的は、チベット人の声を伝えることです。彼らは、恐怖、悲しみ、希望を語っています。この映像は、オリンピックでチベットに目を向けてもらうひとつの手段です。これが撮影者が望んだことであり、インタビューを受けた多くの人々の望みでもあります。
インタビューに応じたのは、100名を超える普通のチベット人たちです。インタビューに応じた全員が、顔を出すことに合意してくれました。これが本当に、世界に向けてメッセージを発するチャンスだからです。

—協力した友人のデチェン・ペンパさん

あなたの力が、ドンドゥブ・ワンチェンさんを救います

ドンドゥブ・ワンチェンさんには時間がありません。

ドンドゥブ・ワンチェンさんは、1974年生まれ。青海省海東州化隆回族自治県の農民の出身です。2008年3月26日に当局に拘束された後、行方不明となり、政治的な理由から拘束されている多くのチベット人とともに安否が懸念されていましたが、その後、家族と弁護士 노력によって西寧市第一拘置所に国家政府分裂に関与した容疑で拘置されており、懲役6年の判決を受けていることがわかりました。

家族によれば、彼は拷問を受け、獄中でのひどい扱いからB型肝炎に感染した可能性があるものの、十分な手当が受けられていません。また、家族は「人権派弁護士」として知られる北京共信弁護士事務所の李敦勇弁護士に弁護を依頼しましたが、当局は李弁護士と彼との面会を妨害し、4月に一度面会できただけだといいます。当局は7月13日、弁護は地元の弁護士に限られるとして、李弁護士による弁護を禁じ、もし違反すれば弁護士免許を剥奪すると通告しています。2008年にチベット各地で起きた騒乱での逮捕者への判例と同様、ドンドゥブ・ワンチェンさんに対する公判は、彼に取って一方的に不利な状況で、しかも非公開で行われたものと見られます。彼は控訴しており、上級審での判断が注目されます。

映画制作者、そして同様に拘束されている多くのチベット人を解放するために、勇気ある証言をした出演者を守るために、あなたの力が必要です。

Time is running out for Tibet

ドンドゥブ・ワンチェンさんの判決の取り消し、即時釈放と、映像の中でインタビューを受けたすべての人々に対する迫害の中止を、はがき、手紙、電話、オンライン署名で中国政府関係者に対して直接、要求してください。

■はがき・手紙の宛先

* 胡锦涛国家主席

100017
北京市西城区府右街2号
国务院办公厅
中华人民共和国国家主席
胡锦涛主席 收

* 温家宝首相

100032
北京市西黄城根北街9号
国务院
温家宝总理 收

* 司法部 (法務省)

100020
北京市朝阳区南大街10号
司法部
吴爱英部长 收

* 公安部 (警察庁)

100741
北京市东长安街14号
公安部
孟建柱部长 收

SFT 日本の Web サイトにははがきの文例が掲載されています

<http://www.sftjapan.org/nihongo:filmingfortibet>

■電話で (中国語)

中国司法部 (法務省) (86) 10 652 067 06

廿里舖拘置所 (青海省西寧市) (86) 97 153 119 82

SFT 日本は“LEAVING FEAR BEHIND”の日本語版を制作。各地で上映会を行っています。日程や場所は Web サイトをご覧ください。サイトでは映像 (ダイジェスト) もご覧いただけます。

<http://www.sftjapan.org/nihongo:leavingfearbehind>

また上映希望の方には DVD を頒布していますので、ぜひお問い合わせください。

sftjapan2008@gmail.com

Students for a Free TIBET (SFT) は、非暴力で平和的な社会的、政治的、経済的活動を通じて、世界中の若い世代にチベットで起こっている人権侵害の現状を知ってもらい、支援活動への意識を高めると同時に、チベット問題の平和的な早期解決を求めることを目的に設立された団体です。1994年にアメリカで発足した SFT は、現在までに高校、大学、地域を拠点とした 650 の支部を数える団体に成長し、35 カ国でチベット問題を訴えています。

<http://www.sftjapan.org>

請 愿 书
尊敬的中國最高領導胡錦濤主席：
這份請愿書是為被拘禁的電影製作人、藏人 Dhandup Wangchen (當知項欠) 先生來向您請求的。

根據了解，當知項欠先生是於 2008 年 3 月 26 日被逮捕拘禁，由於攝影紀錄片，被指控“煽動分裂國家罪”，將于近期，在青海省西寧市，面臨對他的審判；當知項欠先生在拘留期間被毆打和折磨；根據最新的消息，他的身體狀況很差，並且患上乙型肝炎，却因被禁而得不到治療。

此外，當知項欠先生所委託的獨立律師被當局阻撓，禁止介入。這一事實，讓人懷疑他難以得到公正審判，以及中國司法制度的公正性。

當知項欠先生，他並不是抗爭社會秩序的恐怖分子，只是以拍攝紀錄片的方式，是以和平的手段來表達其自由和表現權利罷了。個人意志自由和行使不是被保障的公民權利呢？若像他這樣的表達方式，是違反自由思想意識，就被判定反叛者，而受到壓迫的嗎。這不是違反了中國政府曾經在國際北京奧運會上所宣誓、公開表明「奧運會促進中國人權事業發展」的公約？我們所見到的却是與宣誓相反的。

基于人道立場請求以下的事，伸張正義，實踐中國政府人權發展的承諾：

1. 立刻以無條件釋放 Dhandup Wangchen(當知項欠) 先生。
2. 至釋放 Dhandup Wangchen(當知項欠) 先生那天為止，保障他的人身安全，受人道待遇，不再遭到虐待和虐待行為，同時能不斷地與家人及他選擇的律師會面。
3. 提供他需要的醫療服務 Dhandup Wangchen(當知項欠) 先生。
4. 立即停止阻撓 Dhandup Wangchen(當知項欠) 先生所委託的獨立律師介入，並能忠實的法律援助當知項欠先生。
5. 確保這紀錄片的所有家人，包含受到採訪的人，的人身安全完全自由。

願主席察明，無辜的人民不再受苦難。

專此佈達

敬啟。

